

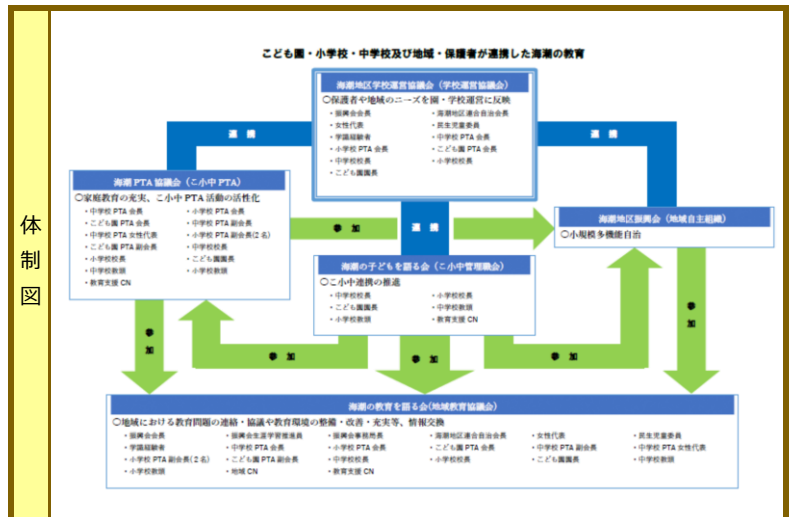
地域総がかりで育てる「うしおっ子」

市町村名	名称	関係する学校名
雲南市	海潮中学校区地域学校協働本部	雲南市立海潮中学校、雲南市立海潮小学校 (雲南市立認定こども園海潮こども園)

中学校区の人口	1,529 人		中学校区の世帯数	532 世帯	
開始年度	平成 20 年度	関係学校数	2 校	合計学級数	11 学級
				合計児童・生徒数	93 人
活動内容	学校支援（地域学校協働本部）	地域未来塾	放課後支援	—	—

地域学校協働活動推進員等配置人数	統括的な地域学校協働活動推進員	統括コーディネーター	地域学校協働活動推進員	地域コーディネーター	合計
(内訳)	0 人	1 人	0 人	1 人	2 人
		行政職員 (教育支援コーディネーター)		地元住民	
ボランティア等数	登録人数(H30)		活動延べ人数(H30)		
	80 人		246 人		
学校区の協議会	名称	主な構成メンバー			人数
	海潮地区学校運営協議会	地区振興会、民生児童委員、主任児童委員、自治会、PTA、園長、校長、学識経験者（地元出身市議会議員）			11 人

連絡先	雲南市立海潮中学校
住所	〒 699 - 1206 雲南市大東町南村268
TEL	0854 - 43 - 2271
FAX	0854 - 43 - 9061
MAIL	ushio-chu@unnan.ed.jp
参考URL	



これまでの経緯

平成20年から始まった学校支援地域本部事業や、放課後の子供の居場所づくり事業を通じ、学校と地域が連携して子供を育てていく体制づくりが進んでいた。地域の中学校の統廃合問題を契機とし、特色ある学校づくりに地域が主体的に関わることで、さらなる支援体制が構築されている。

目的

地域・学校・家庭が連携し、地域での子育て環境の充実に向けて取り組む。
 また地域資源を活用した学習をととして主体的に地域に携わる人づくりを進めていく。

○活動の概要

(1) 特色ある仕組み・体制・機能

- ・小学校に地域コーディネーターを、中学校区に教育支援コーディネーターを配置し、両コーディネーターが連携して事業にあたっている。
- ・コミュニティ・スクール発足前から、教職員や地域との連携がしっかりとできており、「海潮の教育を語る会（地域教育協議会）」の中で教育環境の整備などの意見交換を行いながら、地域における課題だけでなく、今の子供たちに必要なことについても協議されてきた。
- ・こども園や小学校の子供たちは中学校のプール施設の共同利用や、合同運動会の実施など、異校種間での交流を積極的に実施している。

(2) 活動を実施する中で明らかになった解決すべき課題

- ・小学校から中学校の活動の様子が見えにくく進学への具体的なイメージが持ちづらい。
- ・通塾困難地域であり、自主学習の習慣が定着しにくい生徒が多い現状への対応。
- ・生徒数の減少と地域の協力者の高齢化により、今まで行っていた活動の持続可能なかたちへの検討の必要性。

(3) 課題を解決するためのポイント

- ・特色ある学校づくりと、それを実施するための地域との協議の場の設置
- ・ICTを活用した全校学習会（放課後学習）を実施
- ・海潮中学校へ進学する具体的なイメージを持たせるため、生徒による学校紹介動画の作成
- ・小中合同運動会等の開催により、小中PTA・教職員のつながりの強化
- ・地域自主組織や地域ボランティア・PTAへの積極的な働きかけ

○活動を実施しての効果・成果

- ・中学校で毎週実施している放課後学習へ小学生が加わって一緒に学習を行うなど、お互いの学校生活を肌で感じ、進学に向けた取組につながった。
- ・小中の教職員が子供たちの育った地区を、地域の方にガイドをしてもらいながら巡り、地域の資源やその取組を知る機会となっている。また異校種間でそれぞれの授業や取組の紹介を行うことで、小中の共通した授業づくりにつながった。
- ・職員会議などで教職員の目が届かない時間帯の子供たちの見守りを地域のボランティアが担うことで、地域も子供たちの実態を知ることができている。また、定期的に行う情報交換の場では子供たちにとってどのように取り組んでいくべきか、家庭学習につながるような取組に向けて意見交換を行うなど、学校とともに考える体制ができた。

○今後の方向性

学校運営協議会の中で地域と学校の協働のあり方を協議し、特色ある学校づくりや子供たちの多様な活動にむけた支援へ誰もが主体的に関わる体制づくりをすすめていく。

○活動の様子



中学校での放課後学習の様子



合同運動会